

徽宗「大觀茶論」の研究

熊倉功夫編著

『3月刊』 四六判 並製 約300頁 定価(本体4,500円+税)

ISBN978-4-86366-935-2 C1020

●北宋の徽宗は、政治的には北宋を断絶せしめた皇帝であつたが、詩書画など文化面では特筆すべき業績を遺してゐる。その著『大觀茶論』は、唐陸羽の『茶經』、宋蔡襄の『茶錄』などとともに、中国の茶文化に与えた影響は大きい。特に、日本の抹茶法における濃茶の点て方との関係などが論じられてゐる。また、その画は東山御物としても重宝された。

●本書では、『大觀茶論』の内容、その影響、宋の茶文化の諸相、さらに徽宗や『大觀茶論』と日本との関わりなどについて、日本の精銳9名が論じ、その歴史的意味について明りかにする。

〔執筆者〕

熊倉功夫／中村順行／程啓坤／沈冬梅／高橋忠彦／中村羊一郎／関剣平／黃傑／陶徳臣

〔著者プロフィール〕 熊倉功夫 (くまくら じゅうお)

一九四三年東京生まれ。東京教育大学文学部卒。同大学院博士課程修了。筑波大学教授、国立民族学博物館教授、林原美術館館長、静岡文化芸術大学学長を経て、現在ミホミュージアム館長。茶の湯文化学会会長。著書、編著、校注多数。和食文化、茶の湯文化に関してメディアでの発言も積極的に行つている。

【既刊】

宋西『喫茶養生記』の研究 熊倉功夫・姚国坤編

A5判 並製292頁 (カラー10絵8頁) 定価(本体3,500円+税)

ISBN978-4-86366-935-2 C1020

宋西は一十八歳で入宗するも半年で歸国、四十七歳の時ふたたび入宗する。天台山の虛庵懷敞に禅を學んで五十一歳で帰国、臨濟宗を日本にむだらし、五十八歳で『興禪護國論』を著した。『喫茶養生記』を執筆したのは七十一歳のときで、それは日本における抹茶法の始まりであった。本書では『喫茶養生記』誕生の背景・動機、宋代文人文化などの論考に、『喫茶養生記』(初治本)の翻刻を掲載した。

宋西禪師と『喫茶養生記』への疑問 (熊倉功夫)
 宋西が天台山に赴いた経緯と茶に関する事跡 (姚国坤)
 『喫茶養生記』の文体と語彙 (高橋忠彦)
 『喫茶養生記』執筆の目的 (中村修也)
 『喫茶養生記』要述 (程啓坤)

(株)宮帯出版社

京都市上京区真倉町739-1

TEL(075)441-7747

FAX(075)(075)441-7747

注文書

注文書

書店(帳合)印
注文(返条付)

注文数 冊 担当
冊 様

書名
発行 (株)宮帯出版社 京都市上京区真倉町739-1

ISBN978-4-86366-935-2 C1020 ¥4500E

TEL(075)441-7747
FAX(075)(075)441-7747

年 月 日

年 月 日

年 月 日

注文書

書店(帳合)印
注文(返条付)

注文数 冊 担当
冊 様

書名
発行 (株)宮帯出版社 京都市上京区真倉町739-1

ISBN978-4-86366-935-2 C1020 ¥3500E

TEL(075)441-7747
FAX(075)(075)441-7747

年 月 日

年 月 日

年 月 日

年 月 日

宋西『喫茶養生記』の研究

熊倉功夫・姚国坤 編

定価(本体3500円+税)

年 月 日